

A New Encounter with Ko Murobushi

Faux Pas / 踏み外し

会期 | 2026年2月13日(金)～22日(日)

開場時間 | 13日(金)～15日(日) 14:00～18:00 (19:00よりイベント)
16日(月)～22日(日) 14:00～20:00

概要 |

この度、2025年にウィーン・国際ダンスフェスティバルで開催された室伏鴻アーカイブ展『A New Encounter with Ko Murobushi "Faux Pas"』を東京で行う運びとなりました。

本展では、1968年に舞踏の創始者である土方巽(1928-1986)との出会いを通して踊りを始め、生涯を通し国内外で活動したダンサー室伏鴻の、主に初期、1970年代、80年代の写真、映像、ポスター、テキストを中心として、そのダンスの探求の軌跡をたどります。

室伏鴻プロフィール |

1947年、東京生まれ。ダンサー、振付家。1969年、土方巽に師事。1972年、舞踏集団「大駱駝艦」の創立に参加。2年後の1974年、舞踏新聞『激動の季節』を編集・発行し、同時に女性舞踏集団「アリアドネの会」をプロデュース。1976年、自身の舞踏集団「背火」を結成。1978年、パリ公演『最後のエデン 彼岸への門』や『ツアラトゥストラ』のヨーロッパツアーなどにより、ヨーロッパにおける舞踏の地位を確立。その後もヨーロッパを拠点に世界各地で公演活動を続ける。

2000年、日本での活動を再開。ソロ活動の傍ら、男性ダンスユニット「Ko & Edge Co.」を結成し、数々の振付作品を手掛け、高い評価を得る。国内外で精力的に活動を展開。

若手ダンサーの指導に尽力し、インブルスタンツ、CNDC アンジェなどで高い評価を得た。国内外の多くのダンサーと共演し、ダンスの真髄を探求し続けた。

1969年に土方巽の門を叩いて以来、孤高の舞踏家として奔走し、観客に衝撃と新たな出会いを与え続けた。2015年、旅の途中、メキシコにて客死。

関連イベント | 会場：室伏鴻アーカイブ Shy

2.13 | トーク

北龍峡 Night——舞踏派背火及び北龍峡関係者によるお話

稲生幸成、加藤俊明、岡本義文、他

参加費：1500円(パーティー費込み)

2.14 | シンポジウム

Faux Pas / 踏み外し

堀千晶 | (未定)

國吉和子 | 「内側から壊れていくもの」について

参加費：1500円

2.15 | シンポジウム

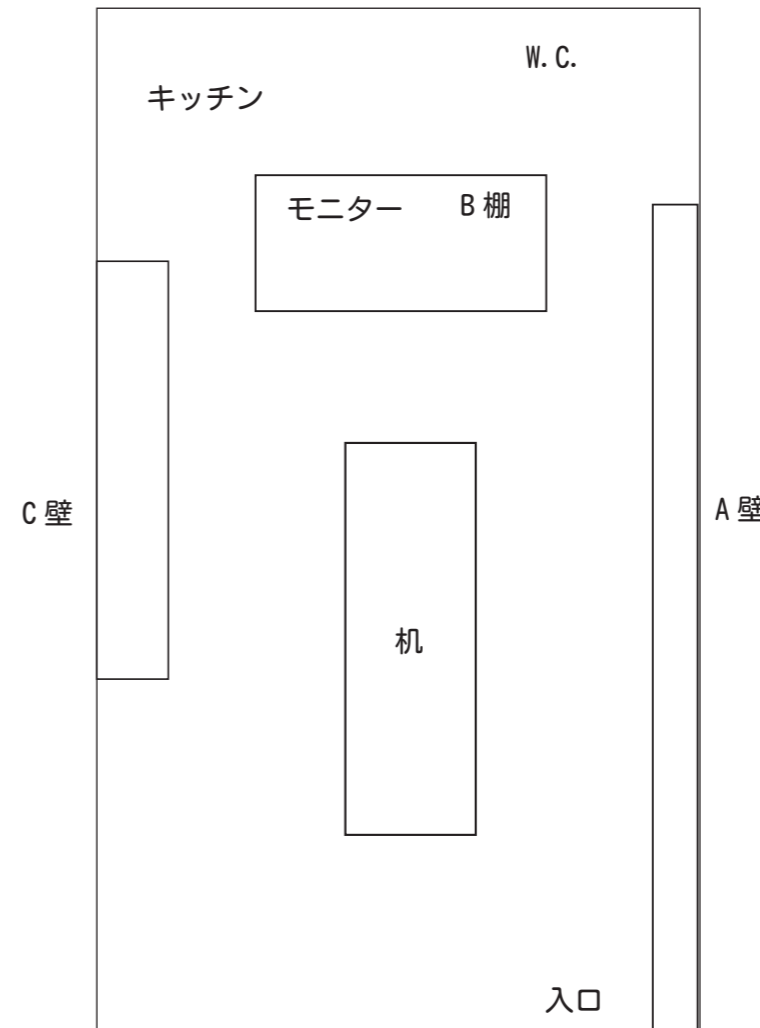
Faux Pas / 踏み外し

ジュリ・ダン | Swinging the revolution: Ko Murobushi's grammatical missteps.

宇野邦一 | 《生成》について、また《生成》を裏切る言語について

参加費：1500円

会場構成 | 室伏鴻アーカイブ Shy



A 壁 ポスター：「刺青」(1977)、「男肉物語」(1974)、「皇大鞆丸」(1974)、「蘭鑄神戯」(1975)「陽物神譚」(1973)
舞踏新聞「激しい季節」版下(1974)

B 棚 写真『鎌鼬』細江英公(現代思潮社 1969)より
資料ファイル(チラシ、評論等 [1969～2015])
モニター：ウィーン展記録写真(2025)

C 壁 「常闇形」パンフレット、ポスター(ソロリサイタル「木乃伊」)、写真「最後の楽園—彼方の門」
*上段：「背火」等、各種チラシ・チケット

机 室伏メモ、他

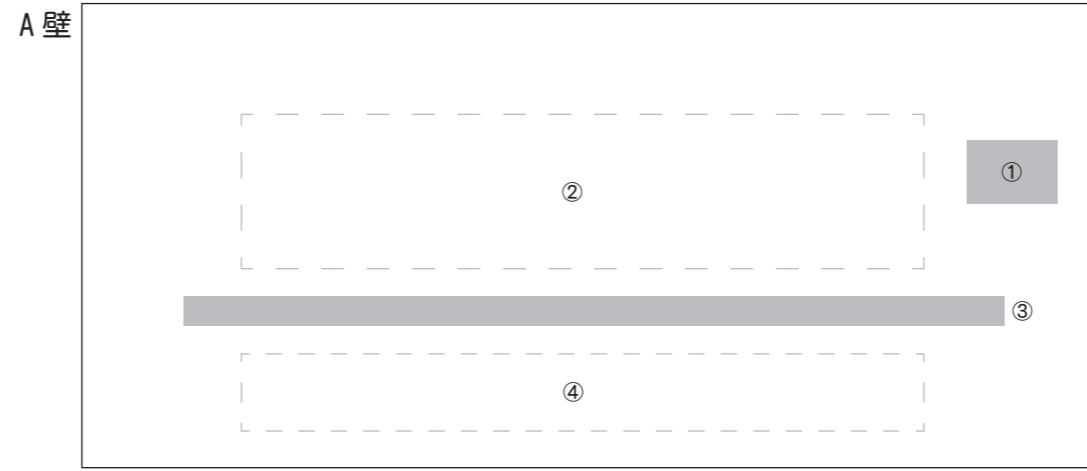
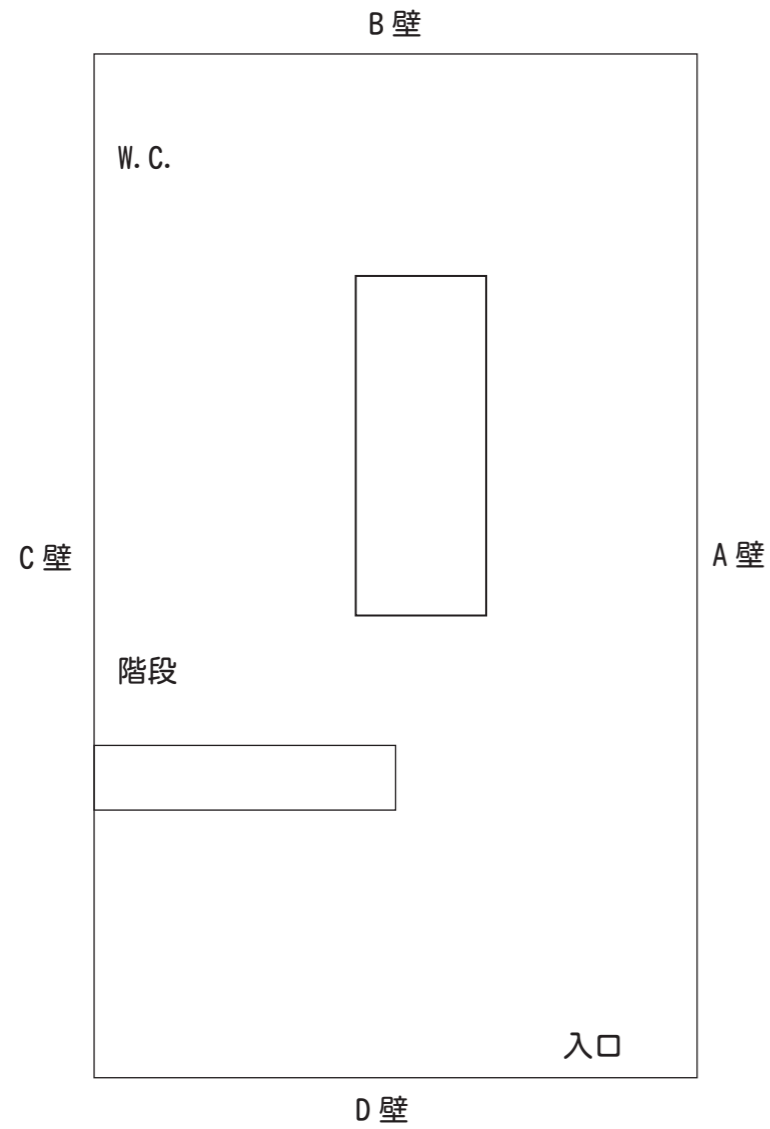
トイレ前壁 ポスター：「バラ色ダンス」、「虚無僧」(1976)、「土方巽98前夜祭」版下(1998)、舞踏伽藍北龍峡機関紙「北龍峡」(1976)

入口横壁 ポスター「常闇形」

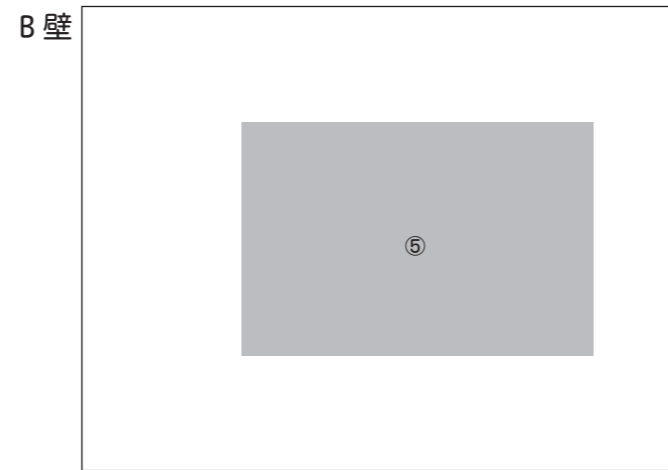
A New Encounter with Ko Murobushi

Faux Pas / 踏み外し

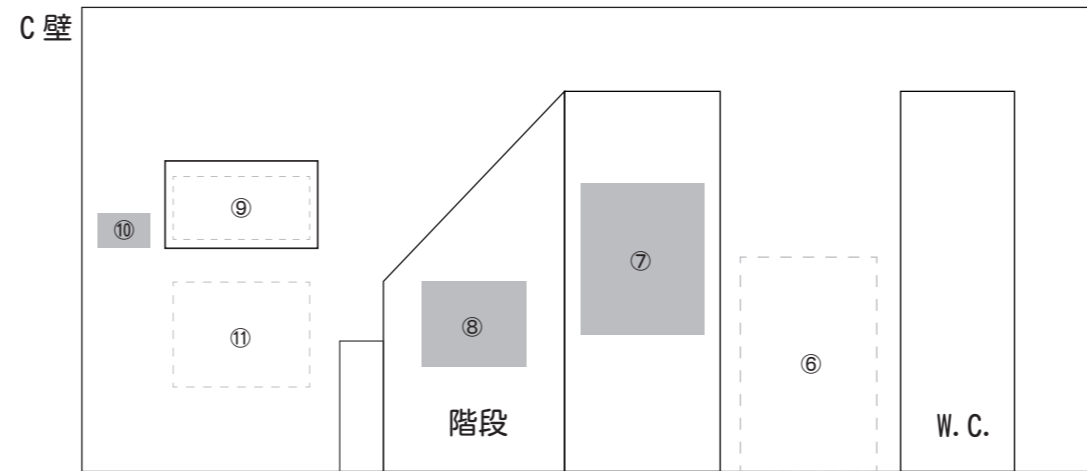
会場構成 | ル・ティロフ



- ① 「肉体の叛乱」 撮影：中谷忠雄
- ② 舞台写真、スナップ写真（1970年代、80年代）
- ③ 大駱駝艦天賦典式「陽物神譚」（1973）撮影：スタッフ・テス
- ④ 舞台写真、スナップ写真（1970年代、80年代）



- ⑤ 映像 "Faux Pas Infini" glitch work by ucnv.



- ⑥ 室伏が使っていた文房具等
- ⑦ ポスター「常闇形」（1977）、中西夏之
- ⑧ ポスター「木乃伊」（1980、ソロリサイタル）
- ⑨ 日記帳
- ⑩ 写真（1980年代、セーヌ川にて）
- ⑪ 日記帳からの抜粋

